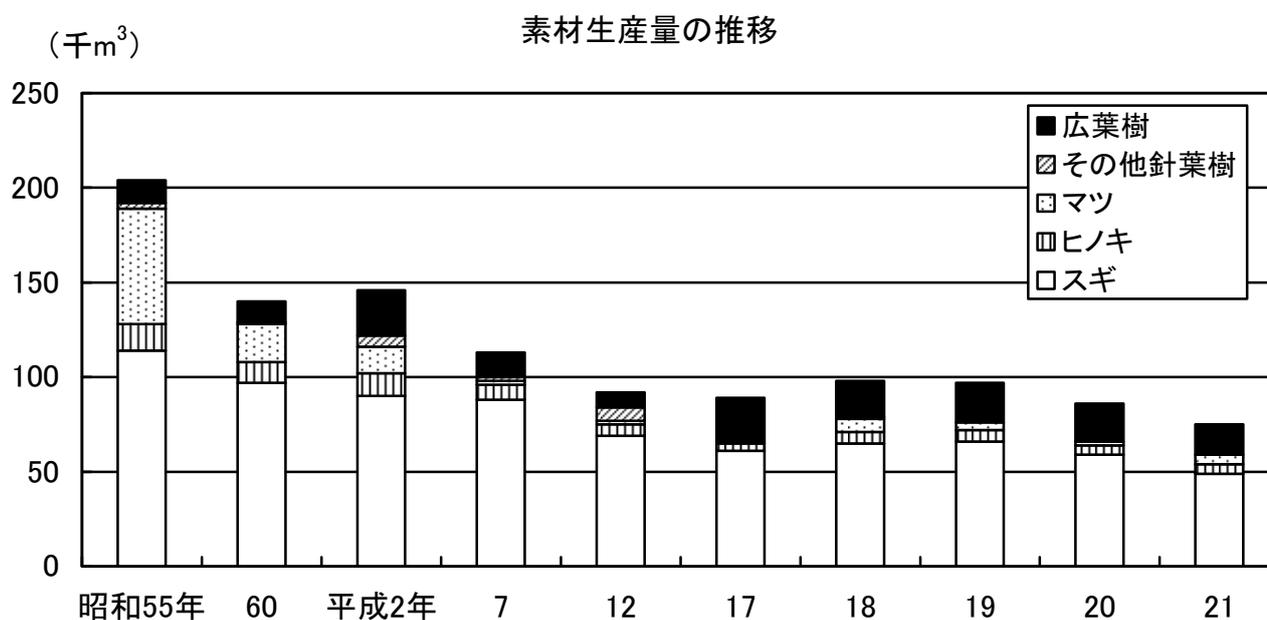
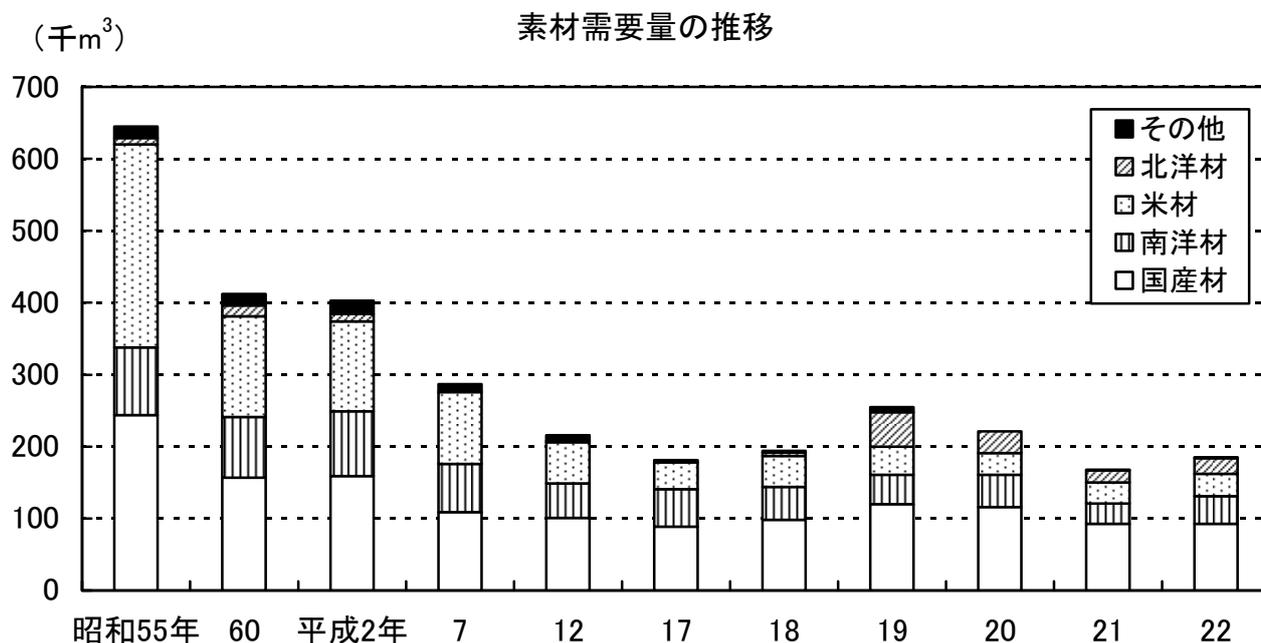


5. 林産物の需給

(1) 木材の需給



平成22年の素材需要量は前年より17千m³増加し185千m³であった。このうち国産材は93千m³、輸入材は92千m³であった。

輸入材のうち、南洋材が41%、米材が34%、北洋材が24%である。

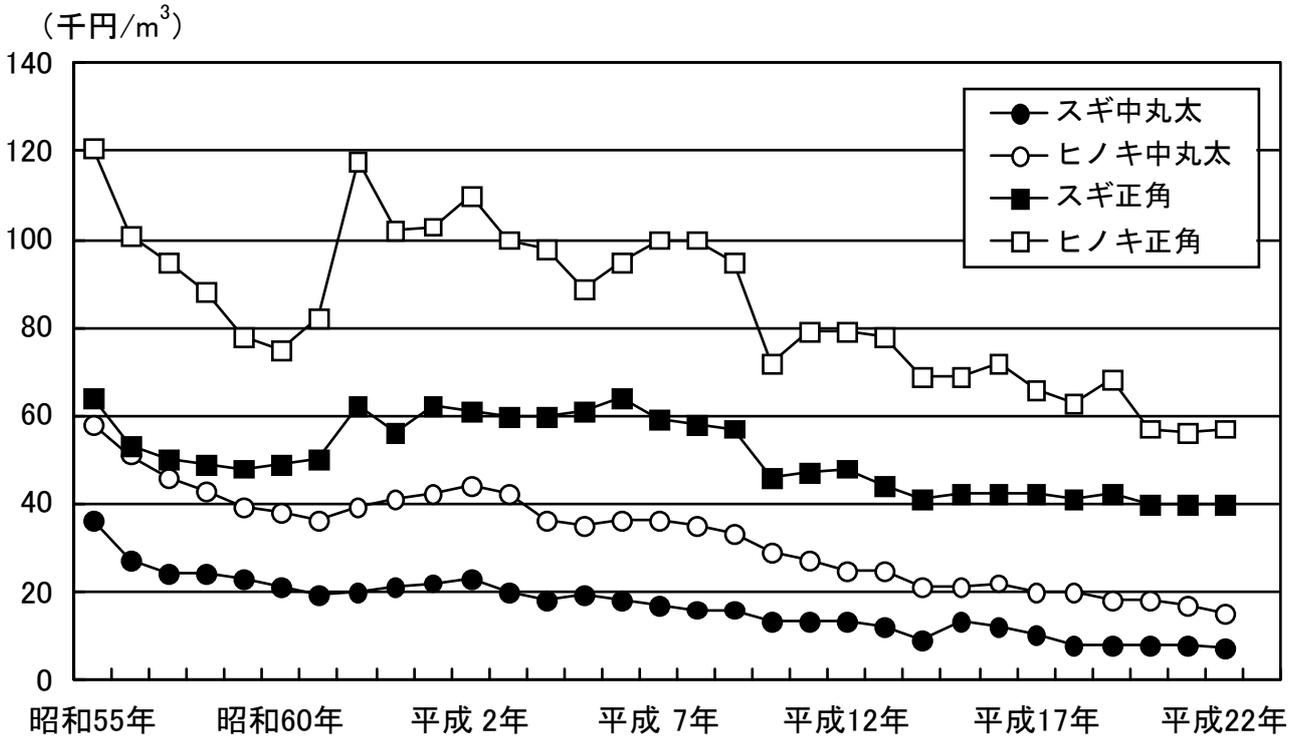
県内素材生産量は、前年より5千m³減少し70千m³で、樹種別ではスギ45千m³、ヒノキ3千m³、マツ6千m³、広葉樹が16千m³となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林、公有林とも前年同様の各2千m³、私有林は前年より5千m³減少し、66千m³であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は73千m³、製材品生産量は45千m³となっている。

(2) 木材価格

木材価格の推移



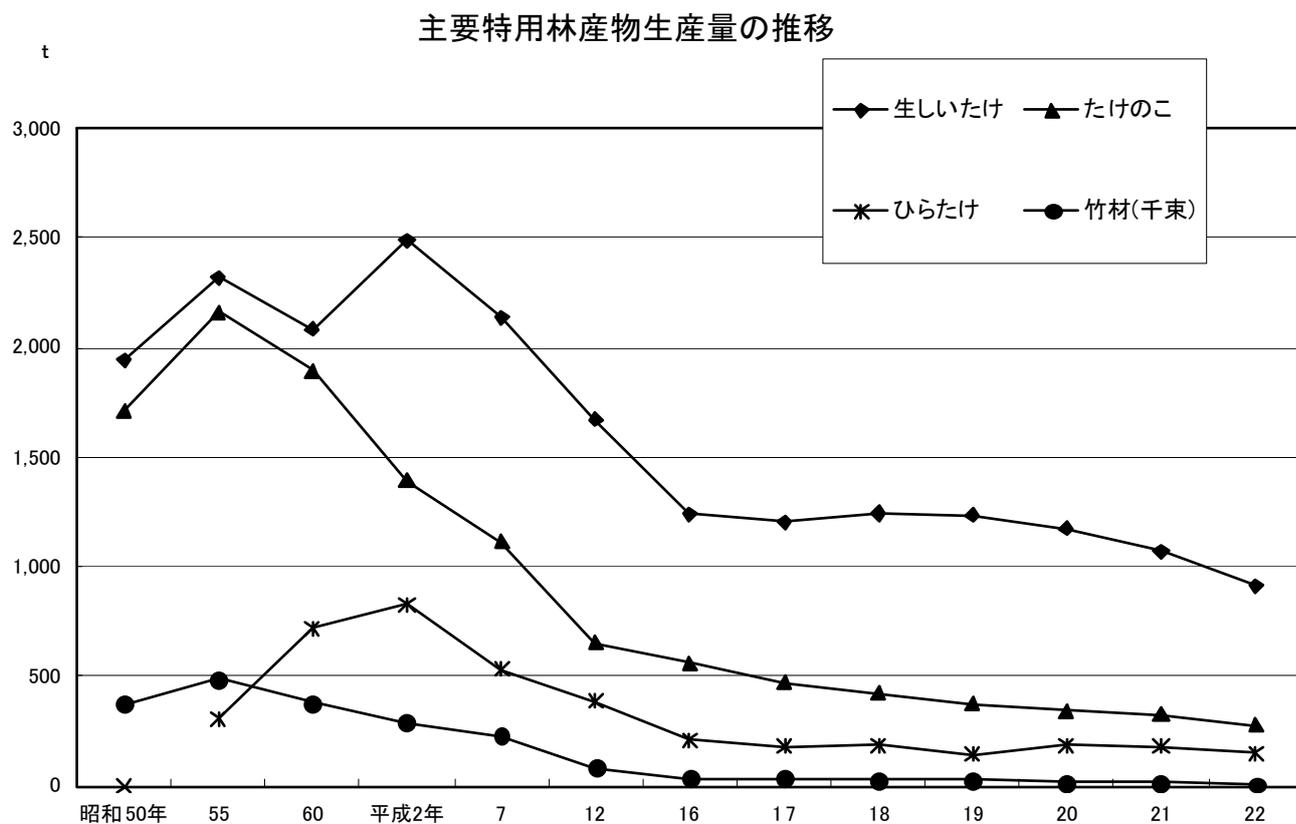
昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下した。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

平成22年の素材の平均価格は、スギ中丸太が7,083円/m³で前年から875円下落、ヒノキ中丸太が14,583円/m³で前年から2,375円下落している。

製材品は、スギ正角(10.5cm角、長さ3.0m)が40,250円/m³で前年から250円上昇、ヒノキ正角(10.5cm角、長さ4.0m)が57,167円/m³で1,467円上昇している。

(3) 特用林産物の需給



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産物は、シイタケ・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは前年比14%減の915t の生産となった。地域別では千葉が282t と最も多く、次いで君津・東葛飾・山武の順となっている。

ヒラタケは、対前年比17%減の148 t となっている。

タケノコは生産者の減少、獣害により前年比14%減の280 t の生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く110 t、次いで長生・千葉の順となっている。特に、夷隅地方は早出しタケノコの産地として知られている。

竹類は対前年比39%増の7千束となっている。